

オープンアクセス加速化事業 研究データ基盤ストレージ 一式

[ご参考]

GakuNin RDM 拡張ストレージ 利用方法

第 1.2 版

2025 年 10 月 10 日

富士電機 IT ソリューション株式会社

目次

1. はじめに	1
2. GakuNin RDM 拡張ストレージ接続	2
2.1. プロフィールへの拡張ストレージ情報登録	2
2.2. プロジェクトの拡張ストレージ接続	4
2.3. その他	7

改版履歴

版数	更新日	修正箇所	修正内容	作成者
0.1 版	2025 年 4 月 30 日	-	新規作成	PLC)寺田
1.0 版	2025 年 5 月 8 日	-	顧客承認	-
1.1 版	2025 年 5 月 29 日	P.1 - 1. P.5 - 2.2③	バケット作成・選択に関する注意事項を追記・修正	PLC)寺田
1.2 版	2025 年 10 月 10 日	P.3 - 2.1④	通知メールの送信元アドレスを修正	PLC)寺田

1. はじめに

本書は GakuNin RDM にて拡張ストレージを利用する手順を記載しており、利用者向け参考手順書となります。拡張ストレージ管理者にて利用者アカウントおよびバケット登録が行われていないと、拡張ストレージを利用することはできません。

拡張ストレージ接続後は、NII 標準ストレージと同様の方法で 사용할 ことが可能です。

NII 標準ストレージと拡張ストレージの違いは以下があります。

	NII 標準ストレージ	拡張ストレージ(ActiveScale)
利用者あたりの使用容量制限	100GB	未定
1 ファイルあたりのサイズ上限	5GB	50GB

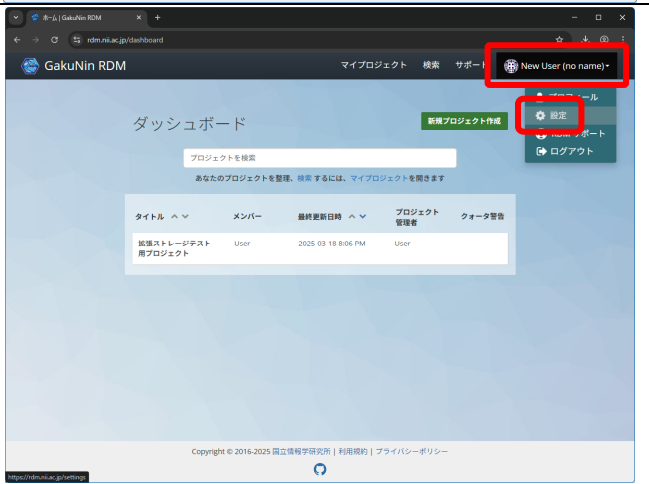
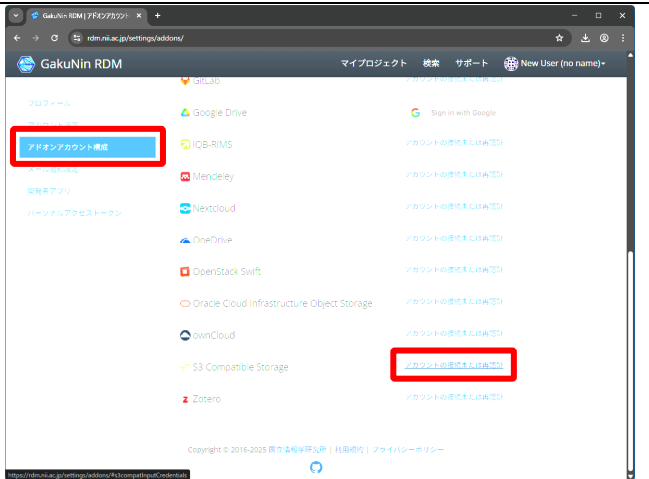
また、GakuNin RDM 拡張ストレージの利用において下記の留意事項がありますので注意してください。

- GakuNin RDM でバケットを作成することが可能ですが、バージョン管理機能が有効になりません。
GakuNin RDM ではバケットを作成しないでください。
- バケットを削除することができません。
拡張ストレージ管理者でも削除することができません。
- GakuNin RDM を 90 日間使用しないと拡張ストレージのアドオン認証が切断されます。
切断された場合やファイルのアップロードに失敗する場合は、GakuNin RDM Q&A 集の「アドオン Q4」を参照してください。

<https://support.rdm.nii.ac.jp/faq/#a9>

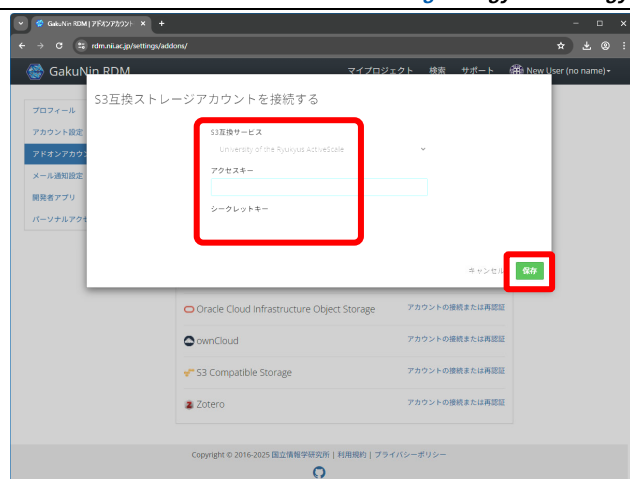
2. GakuNin RDM 拡張ストレージ接続

2.1. プロフィールへの拡張ストレージ情報登録

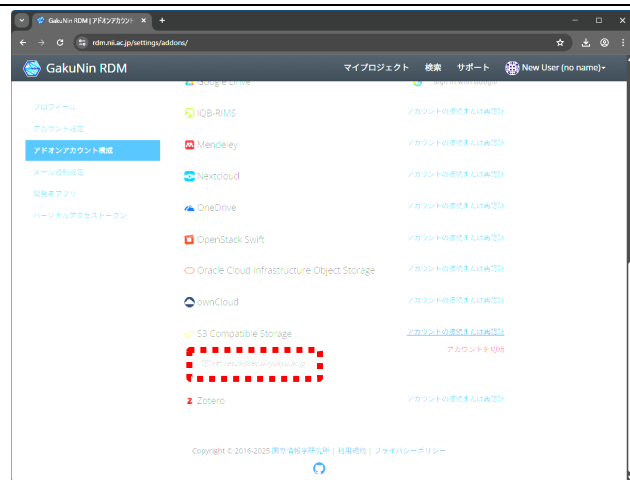
①	GakuNin RDM https://rdm.nii.ac.jp/ に利用者としてログインします。 ※ ログイン手順は省略します。	
②	設定を開きます。 右上のユーザー名をクリックし、「設定」をクリックします。	
③	S3 互換ストレージアカウントを接続します。 「アドオンアカウント構成」→S3 Compatible Storage の「アカウントの接続または再認証」をクリックします。	

④ 下記を入力し、「保存」をクリックします。

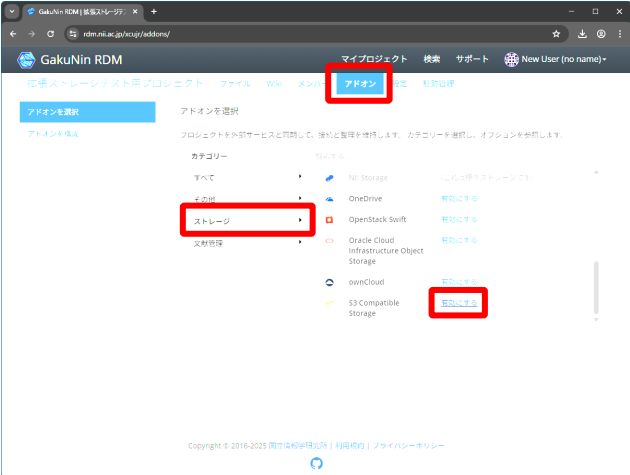
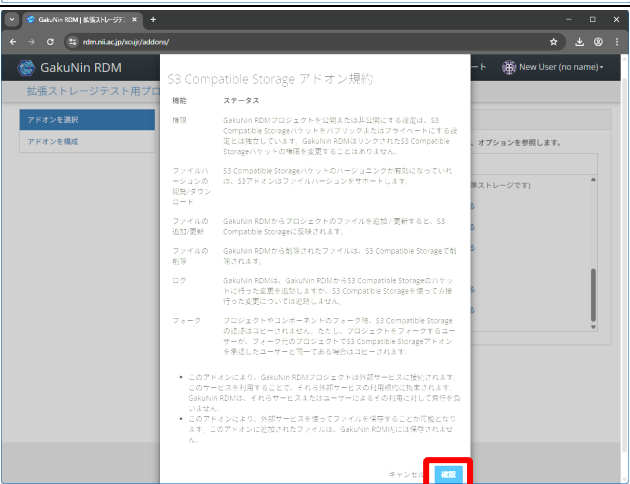
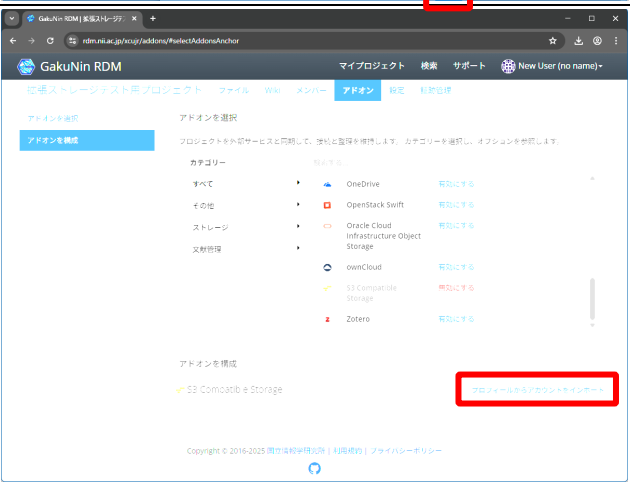
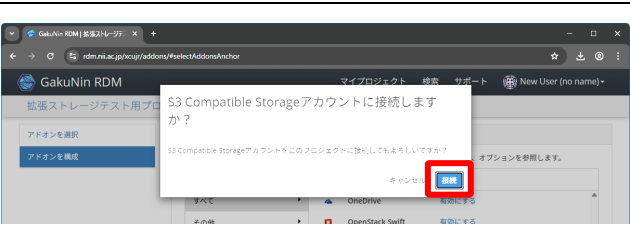
- S3 互換サービス
→ 「University of the Ryukyus
ActiveScale」を選択します。
- アクセスキー
- シークレットキー
→ ActiveScale への利用者アカウント登録完了時に受信した下記のようなメール 2 通を参照してください。
送信者: library@w3.u-ryukyu.ac.jp
題名: [ActiveScale SM] [u-ryukyu
GakuNin RDM Expansion Storage]
Your S3 Access Key Information
題名: [ActiveScale SM] [u-ryukyu
GakuNin RDM Expansion Storage]
Your S3 Secret Key Information



「認証者: メールアドレス」が表示されれば接続成功です。



2.2. プロジェクトの拡張ストレージ接続

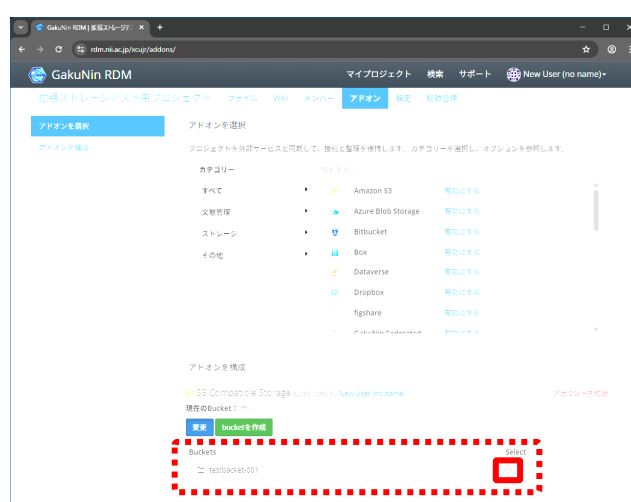
① 拡張ストレージを利用したいプロジェクトを開きます。 「アドオン」→「ストレージ」をクリックします。 S3 Compatible Storage の「有効にする」をクリックします。	
規約が表示されます。 内容を確認し、「確認」をクリックします。	
② 「プロフィールからアカウントをインポート」をクリックします。	
「接続」をクリックします。	

③ 画面下部に拡張ストレージ管理者にて準備したバケット一覧が表示されます。

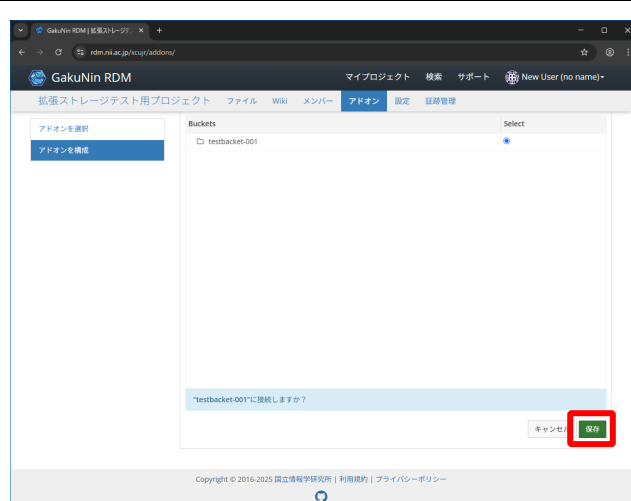
拡張ストレージとして接続したいバケットの「○」(Select)をクリックします。

※ プロジェクトごとに異なるバケットを接続してください。
複数のプロジェクトに同じバケットを接続すると
アクセス権の問題が発生する可能性があります。

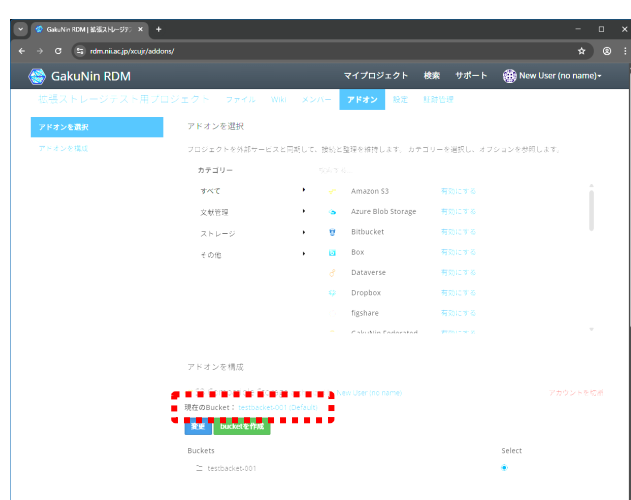
※ 「bucket を作成」をクリックして利用者側でバケットを作成することも可能ですが、本画面から作成したバケットはバージョン管理機能が有効になりません。
「bucket を作成」はクリックしないでください。



画面を下方にスクロールし、「保存」をクリックします。

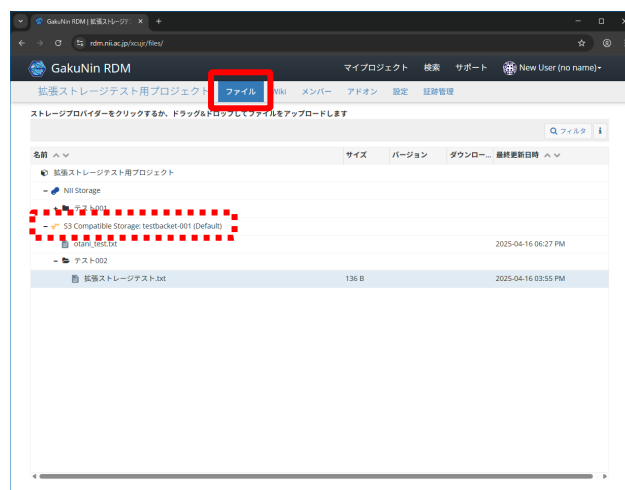


「現在の Bucket」に接続したバケットが表示されることを確認します。

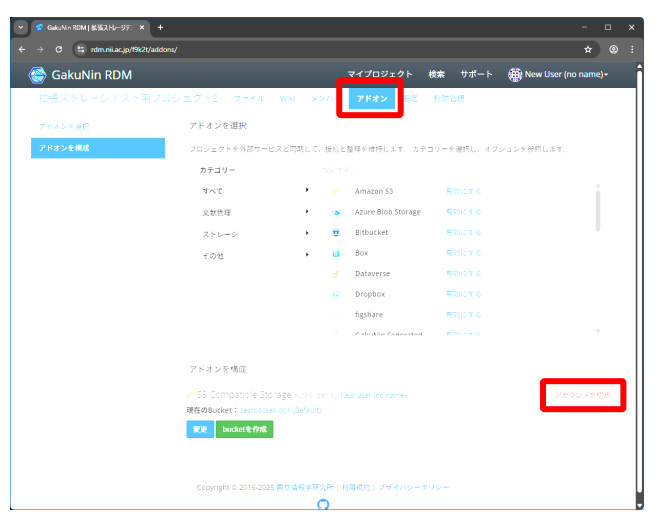


④ プロジェクトの「ファイル」を開きます。

拡張ストレージのバケット「S3 Compatible Storage: 選択したバケット名」が表示され、アクセスできることを確認します。



2.3. その他

① 拡張ストレージの切断方法 拡張ストレージを切断したいプロジェクトを開き、「アドオン」をクリックします。 画面下部に接続しているバケットが表示されますので、「アカウントを切断」をクリックします。	
確認ウィンドウが表示されますので、「切断」をクリックします。	
「ファイル」を開き、拡張ストレージが表示されていないことを確認します。	

